

Canciones de 11 países 11 の国から

2013年6月22日 Olé

峰 万里恵 うた
高場 将美 ギター

第1部

1. キューバ Cuba 20年 Veinte años

作詞：ギジェルミーナ・アランブール Guillermina Aramburu
作曲：マリーア・テレサ・ベラ María Teresa Vera



マリーア・テレサ・ベラ(右)と、
第2ギター&ヴォイスの ロレンソ・
ジェレスエーロ

作詞者(ふつうの主婦)が自分の人生で起こったことをもとに、自分の気持ちを詩に書き、小学生のころ親友だったマリーア・テレサ(第一線で活動していたプロ・アーティスト)に作曲してもらいました。1935年発表。彼女たちは40才くらいでした。(アバネーラ habanera)というリズムによる歌曲です。

わたしがあなたを愛しているかどうか、あなたにはどうでもいいことでしょう。もうあなたはわたしを愛していないのだから。

もう過ぎてしまった愛は 思い出してはいけない。わたしはあなたの人生の夢だった、もう遠くなったある日のこと。きょう わたしは過ぎ去ったものの代表。わたしは それではいやだ。

もし人が 愛しているさまざまのものごとに 手がとどくものなら、あなたは同じようにわたしを愛しているだろう、20年前と同じに。

どれほどの悲しみをもって、わたしたちは見ていることか、わたしたちから去っていく愛を。それは魂のひとかけら、憐れみなく奪い取られていくもの。

2. メキシコ México ~ エクアドール Ecuador ソンプラス (影たち) Sombras

詩：ロサーリオ・サンソーレス Rosario Sansores
作曲：カルロス・ブリート Carlos Brito Benavides

メキシコの女性詩人(右写真。キューバに住んでいた)の詩を雑誌で読んで感動した、エクアドールの音楽家(当時はアンデス高原の町で管弦楽団の指揮者だった)が作曲しました。

リズムは(パシージョ pasillo)で、ウィンナ・ワルツのステップの1変形として、エクアドール~コロンビアのアンデス高原地方で生まれたものです。



あなたが去って行ってしまったとき、わたしを影たちが包むだろう.....あなたが去って行ってしまったとき。

わたしの痛みと ふたりきりで、わたしは この甘美な恋物語を思い起こすだろう、その青い時間たちとともに。

あなたが去って行ってしまったとき わたしを影たちが包むだろう。

そして 小さな寝室の ぼんやりとした暗がりの中で そこでは、ある暖かい午後、あなたはわたしのすべてを愛撫した わたしの両腕は あなたを探すだろう。わたしの口は あなたを探すだろう。そしてわたしは空気の中に吸いこむだろう、バラの香りのようなものを。

あなたが去って行ってしまったとき、わたしを影たちが包むだろう。

3. メキシコ México

ククルククー・パローマ Cucurrucucú paloma

作詞 作曲：トマス・メンデス Tomás Méndez Sosa

メキシコ中央部の広い農牧地帯から生まれた民俗音楽の香りのするポピュラー音楽です。リズムは、(ウワパング Huapango)と呼ばれ、歌曲に使われます。

人の話では、夜になると ただただ泣いているばかりだった。人の話では、眠らなかった、ただただ飲んでいるばかりだった。

人々は誓って言う、空さえも 彼の泣き声を聞いて震えたと。どれほど 彼女ゆえにくるしんだことだろう！ 死の時まで彼女を呼んでいた。

ククルククー、うたっていた。カカカカカー、笑っていた。アイアイアイアイ、泣いていた。命がけの情熱で 死んでいった。

1羽の悲しい鳩が 朝早くから彼女に歌いに行く。2枚ずつ組になった小さな扉がある あの小さな一軒家へ。

人々は誓って言う、あの鳩は 彼の魂に他ならないと まだ彼女を待っている、不幸だったあの女が帰ってくるようにと。

ククルククー、鳩よ、泣かないで。石たちは決して、愛のことを 知ることなんかない！ ククルククー、ククルククー、ククルククー、鳩よ、泣かないで。

4. パラグアイ Paraguay

レハニーア (遠いもの) Lejanía

作詞 作曲：エルミーニオ・ヒメーネス Herminio Giménez

このようなリズム(8分の6拍子と4分の3拍子の同時進行)をもった歌曲は、(グワラニア guarania)という形式名がつけられます。この曲は、第1部の歌詞の一部と、第2部の歌詞のぜんぶが先住民の言語グワラニ語です。

わたしの子ども時代の 遠い、初めての愛、あなたにまた会いたい。崇高な愛、青い夢、あなたはどこにいるのか？ 思い出の中に取り残された あの午後。あの愛情の午後が、わたしの記憶の中に、野鳩の群れのように飛び込んでくる。

きょう、わたしの人生は悲しいから、わたしは口ずさみながら行く、このグワラニ語の悲しい歌を。

あなたにまた会いたい、わたしの愛する日と、どこを歩いているのか？ わたしがあなたと別れてから。この暗いたそがれ時、わたしをなぐさめに、ここへ帰ってきてください。あなたと別れてから、わたしはひとりぼっちの みなしご。小船をこぐように道をさまよう。アザミがわたしを刺す。わたしはやせ細る、わたしは枯れる。わたしの内臓は燃える、わたしがあなたと別れてから、この暗いたそがれ時に。

5. ウルグアイ Uruguay

あなたゆえのサンバ Zamba por vos

作詞 作曲：アルフレード・シタローサ Alfredo Zitarrosa

(サンバ zamba)という形式名です。サンバは、スペインの南アメリカ支配の拠点だった現在のペルーの首都リマで生まれ、広く各地に広まった舞曲の1スタイルの、アルゼンチン~ウルグアイでの名前です。

わたしが あなたゆえに うたっているのではない。あなたにうたっているのは サンバ。うたうときに こう言っている あなたを忘れることができない、あなたを忘れることができない。

わたしが あなたゆえに うたっているのではない。あなたにうたっているのは サンバ。こうやってうたいながら、わたしのために うたっている、わたしのために うたっている。

わたしには ひとつの愛があった。それを待たせておいた。わたしが帰ってきたとき、その愛は わたしを見てもわからなかった、見てもわからなかった。

それは言った たぶん ずっとわたしを愛してきていたのかもしれないと。わたしを見て、そして去っていった。なぜかを言わずに、なぜかを言わずに。

いとしいサンバ、うたいなさい。もう彼女を待っていてはだめ。おまえは考えなければいけない。彼女が帰ってこなかったのは、もうおまえを忘れてしまったからだということ。その花を香らせなさい、枯れてしまった花を。

6. チリ Chile

ラ・ハルディネーラ (庭づくりの女) La jardinera

作詞 作曲：ピオレータ・パーラ
Violeta Parra

この曲のリズムは、(クエーカ cueca)です。先のサンバと、同じ流れから生まれて(サンバよりテンポが軽快で速い)、チリ、アルゼンチン、ボリビアなどで愛されてきました。

あなたのことを忘れるために、わたしは土をたがやしましょう。そこにわたしは見つけない、わたしの悩みの薬を。

ここにはバラの木を植えましょう、トゲのいちばん太いのを。あなたにかぶせる冠のじゅんぴ。わたしのなかで あなたが死ぬための。



少しずつ伸びてゆくでしょう、楽しげなパンジー(思い)たち。もう花が咲いたころには、あなたの思い出は遠くへ行っている。

ポピーの花で、わたしは あなたのいちばんの友だちになるでしょう。枕の下に置こう、心安らかにねむるために。

メリッサの若い芽よ、わたしの悩みがふえたときは、わたしの庭の花たちは、わたしの看護婦になってくれるはず。

そして もしわたしが あなたが後悔する前にいなくなったら、あなたへの遺産がこの花たち。彼女たちで病気を治しにいらっしやい。

わたしの悲しみのために 青いピオレータ(スマイル)。赤いカーネーションは わたしの情熱のため。

そして わたしに こたえてくれるかどうか知るために、わたしは白いマンサニジョンの花びらをむしる。わたしをたくさん愛していても、少しだけ、ぜんぜんでもわたしの心は平気なもの。

7. ブラジル Brasil

罪の色で Da cor do pecado

作詞 作曲：ボロロー Bororó

古きよき時代の、キャバレーの雰囲気にあふれて、今日も愛されている曲です。こんなリズムは、(ショリーニョ chorinho)と呼ばれています。

この黒いからだ。いいにおいのする すてきな あなたの持っているからだ。それは細いからだ、罪の色をしていて、あなたによく似合う。

この 濡れたキス。スキャンダルを起こすような あなたがわたしにくれたキス。それがどこにもない味。キスされたわたしたちは 決して忘れられなかった味。

あなたがわたしに答えて、なにかしゃれたことを言うと、恥ずかしさは身を隠してしまう。なぜなら そこに現れるのは、ブラジルならではの 民族の誇るいたずら心。この森のにおいには 真実のにおいがある.....サウダーチとか 悲しみとか.....

その単純な美しさ あなたの黒いからだは、モレーナ、人を狂わせる。わたしにはなぜだか よくわからない。ただわたしは命のなかに感じる、あなたから出てくるものを。

第2部

1. アルゼンチン Argentina

サンバと水彩画 Zamba y Acuarela

作詞 作曲：ラリ・バリオヌエボ Raly Barrionuevo

新しい、若い感覚の(サンバ)です。でも、アルゼンチン北西部サンティアゴ州の空気はいっぱい含んでいます。

飛んでいるあなたのスカートとともに、わたしはこのサンバを急がずに踊る。あなたの動きが わたしを運んでゆく、そよ風の中の彗星のように。

もうわたしは自分を楽な場所に置いた、時のこの瞬間に。あなたの両足はまわる、まわる。あなたのくちびるに風がキスする。

わたしはそばに寄ることに抵抗できない、あなたのからだのそばに それはふるさとの小さな花の匂いがする。森の中で咲く花。

サンバはまわりつづける。わたしはあなたの胸の上から動かない。わたしはあなたに わたしのスカーフをからめる。あなたはわたしを あなたの静けさでからめる。

この蜜となったサンバは、へだたりの中で燃える火になる。わたしはあなたと愛を交わしたい、サンティアゴの朝ごとに。

あなたの水彩画で わたしのたそがれを描きたい。

わたしはあなたと愛を交わしたい、サンティアゴの朝ごとに。あなたの両腕の中で 夜明けのサンバになりたい。

2. フランス France

プリ・ダイ(おばあさん)のワルツ La valse de Puri Dai

作詞 作曲：エレヌ・メルシュタン Hélène Mershtein

アルジェリア生まれのロマ(いわゆるジプシー民族)であるトニー・ガトリフ監督のフランス映画『僕のスイング Swing』で聴かれた曲です。マヌーシュ(北フランスでの、ロマの呼び名。ドイツでの呼び名はツィガーン)で、少女のころナチの収容所から脱走し、今は北フランスでトレーラー住宅に住んでいるエレヌおばあさんが、うたっていました。ことばは、マヌーシュ語です。この言語は、インドで生まれたものですが、各地でかなり変化しています。

冬 何年か つづいた。春がある また ここに。木々は また 緑色になった。いま わたしたちの時、また ここに。

ごらん、集まってくる わたしたちの人々。長く、たくさんの太陽のあいだ、消息を知らなかった人々。彼らのために できることは いま、木で 大きな焚き火。

森のそばに わたしたちのワゴンを停める。なんとすばらしい 外に出られることは！ あなたには見える、懐かしいものごとが。いまこれから あなたの心は ふたたび開く。

おいで、わたしたちは 旅に出よう。そこで ひさしぶりに語り合おう。そこに わたしたちは みんな一緒にいる。そこで音楽しよう、そして飲もう、そして踊ろう。

3. ポルトガル Portugal

わたしは川で洗っていた Lavava no rio lavava

作詞：アマーリア・ロドリゲシュ Amália Rodrigues

作曲：ジョゼ・フォンテシュ・ローシャ José Fontes Rocha

歌手アマーリアさんが重い病で、自宅でベッド生活をしていたとき書いた詩に、ギター(ポルトガル・ギター)奏者が作曲しました。これらの詩をうたうことで、アマーリアさんは人間としてもアーティストとしても再起しました。

洗っていた、川で 洗っていた。寒さがわたしを凍らせていた、川へ洗たくに出かけたときにも。

おなかが空いていた、ひもじかった。泣いていた、時には 泣いていた、わたしの母さんが泣くのを見て。



うたってもいた、夢を見てもいた。そしてわたしの空想の中で、あんまりいるんなことを空想したので、泣いていたことを忘れていた、くるしんでいたことを忘れていた。

もうわたしは川へ洗たくに行かない。でも泣くことはつづいている。もうわたしは 夢見ていたことを夢見ない。もうわたしは川で洗たくしないのに、どうしてこの寒さがわたしを凍らせるのか、あのころわたしを凍らせたよりもっと。

アイ わたしのお母さん、なんとあの幸せが懐かしいことでしょう！ あのころ知った不幸という幸せが、おなかを空かせて過ごしたことが、わたしを凍らせた寒さが、そしてわたしの空想が。

もうわたしたちはおなかを空かせていない、母さん。でもわたしたちは同じように、持たないでいるときの望みもなくした。もうわたしたちは夢を見るすべを知らない。もうわたしたちはだましながら歩いていく、死にたい望みをだましながら。

4. ペルー Perú

シナモンの花 La Flor de la Canela

作詞作曲：チャブーカ・グランダ Chabuca Granda

ペルーでは、ワルツ valse は、首都リマのアイデンティティの一部となった音楽です。この曲のタイトルは、すばらしいアフリカ系ペルー女性(実在した)のあだ名です。

わたしがあなたにお話しするままにしておいてください、リマ男、わたしに天国のような夢のことを言わせて それは、古い橋と川とポブラ並木の記憶が 思い起こさせるもの。

わたしがあなたにお話しするままにしておいてください、いま、思い出がまだ薫っているうちに、いま、古い橋と川とポブラ並木が、まだ夢の中で揺れているうちに。

髪にはジャスミン、顔にはバラの花。堂々と歩いていました、《シナモンの花》が。いたずらっぽさを振りまき、その歩みにつれて残していきました。胸に挿していた花とハーブの束の香りを。

橋からポブラ並木まで、ちっちゃな足が彼女を運んでいく、彼女の腰のリズムに乗って、震える歩道を通って。彼女は 川のそよ風の笑い声を拾って、風に投げつけていました、橋からポブラ並木まで。

5. スペイン España

みどりの眼 Ojos verdes

作詞：ラファエル・デ・レオン Rafael de León

作曲：マヌエル・キローガ Manuel Quiroga

今日では、(コプラ copla)と呼ばれるジャンル、スペインならではの歌謡曲です。
作者たちはセビージャ出身。

若者宿(娼館)の戸口の壁に寄りかかって、わたしは 5月の夜が燃えるのを見ていた。男たちは通り過ぎてゆき わたしは ほほえんでいた。そのとき わたしの戸口に あなたは馬を止めた。

「セラーナ、火をくれないか」 わたしは言った「ガシェー(ヒターノでない男)、来て、わたしのくちびるからとりなさい。わたしが あなたに火を上げよう」

あなたは馬から降り、わたしは あなたに火をあげた。そして、ふたつのみどりの5月の明星だった、あなたの両目は、わたしにとって。

.....

わたしたちは部屋から 朝が目覚めるのを見た。そして教会の物見の塔が夜明けの鐘を打つのを。夜が明けていくとき あなたはわたしの腕から出て行った。わたしの口の中に ミントとシナモンの とある味を残して。

「セラーナ、ドレスのために、おれはあなたにプレゼントしたい」

「わたしはもう言いました あなたは つとめを果たしたと。なにも わたしにくれなくていい」

あなたは馬にのり、わたしから去った。そして またべつの、あれより美しい5月の夜を わたしはふたたび見ることはなかった。

みどりの両目。バジリコのようにみどり、みどりの小麦のように、みどりの、みどりのレモンのように。

みどりの両目。ナイフの輝きをもってみどり。わたしの心臓に刺し込まれた。

わたしには もう太陽たちはない、明星も 月も。みどりの両目しかない。それがわたしの命。みどりの両目。バジリコのようにみどり、みどりの小麦のように、みどりの、みどりのレモンのように。

6. メキシコ México

最後の1杯で En el último trago

作詞 作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス José Alfredo Jiménez

(カンシオン・ランチェーラ)と呼ばれる、メキシコ農牧地帯の感情表現による歌謡曲のジャンル その改革者ホセ・アルフレードの曲です。

このボトルを わたしといっしょに 飲んでしまいなさい。そして最後の1杯で出て行こう。わたしはあなたの忘却がどんな味がするか知りたい、わたしの両目を あなたの手でふさがれずに。

今夜は わたしはあなたにお願いしない。今夜は あなたはほんとうに行ってしまう。あなたを置いていかなければならないのは なんとつらいことだろう！ もうあなたがわたしを愛していないことは 感じないようにして。

このボトルを わたしといっしょに 飲んでしまいなさい。そして最後の1杯で あなたはわたしにキスする。この場の証人がいないことを期待しよう。もしかしてあなたが恥ずかしくなるといけないから。

もしいつの日か 思いがけず、わたしたちがぶつかったら、挨拶しないでください、面と向かって話さないでください。ただ握手するだけにしよう。そのあとは みんなで噂させておけばいい。

年月は わたしになにも教えてくれなかった。わたしはいつも おなじ過ちに落ちる。またまた見知らぬ人たちと乾杯して、おなじ痛みに泣く。このボトルを わたしといっしょに 飲んでしまいなさい、そして最後の1杯で出て行こう。

7. スペイン España

ラ・タラーラ La Tarara

民謡 採譜編曲：フェデリコ・ガルシア・ロルカ Federico García Lorca

詩人ロルカは、学生劇団をひきいてブルゴスで公演したとき、この民謡が気に入って、採集したとのことです。

アイ タラーラ、頭がおかしくなって 腰を動かしている、オリーブの実の 若者たちのために。

わたしのタラーラは みどりのドレスをもっている、房飾りでいっぱい、そして鈴がいっぱい付いて。

わたしのタラーラは輝かせる、彼女の絹のドレスの裾を。レターマ(エニシダ)とミントのあいだに。

アイ タラーラ、シー(そう)。アイ タラーラ ノー。アイ タラーラ、わたしの心のむすめ。

選曲・構成：峰 万里恵 プログラム作成：高場 将美

これからのライブのおしらせ
(このほかにも、日程は決まっていますが、企画しております)

8月23日(金) 19:00

「ファド」

恵比寿 N.N.スタジオ 1500円(ワン・ドリンク付き)
ファドについてのお話(DVDやCDも)とミニ・ライブの会です。

峰 万里恵:うた

高場 将美:話ノギター

11月16日(土) 19:00

「ワールド・ミュージックの館

～ 峰 万里恵と仲間たち」

東中野 ポレポレ坐 予約3000円(ワン・ドリンク付き)

スペインの詩人ロルカの特集です。

峰 万里恵:うた 俵 英三:ギター

齋藤 徹:コントラバス 高場 将美:話ノギター

ご予約・お問い合わせは

tel/fax 03-3235-0470

marie-mine@hotmail.co.jp

masami_takaba@hotmail.com

<http://mariemine.web.fc2.com/>